



発行日 平成21年9月  
第19号

すっかり秋の装いとなりました。  
日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

医療政策の一貫として、「退院調整加算」が新設される等、退院支援のあり方が注目されています。  
当室における退院支援についてご報告します。

地域医療連携室 高山国子

## 1. 当院の逆紹介率は、12%~15%を推移しています。

$$\text{8月の逆紹介率 } 12\% \doteq \frac{357 \text{ 件 (診療情報提供加件数)}}{3012 \text{ 名 (初診患者数)}} \times 100$$

## 2. 地域医療連携室が目指す退院支援の考え方について

早期退院だけを目的した支援よりも、専門的知識や評価、援助技術を用いた退院支援の方が、患者さんの病状改善や生活の安定に貢献できると考えています。

- ・退院支援は、単純に医療を継続させることだけではありません。
- ・患者さんの「生き様」を援助し、地域に引き継ぐことです。
- ・援助の中心には、常に患者さんのご家族を置くことを忘れない作業でもあると思います。

## 3. 地域医療連携室の退院支援の取り組みについて

- 1) 診療参加型病診連携や開放型病床等、地域の医療機関の先生方がお気軽に当院にお越しいただけるような事業の強化を図っています。
- 2) かかりつけ医・ケアマネージャー・訪問看護師・薬剤師・福祉用具専門指導員等、他職種による退院時共同カンファレンスを4~5回/月開催し、患者さんの質の高い在宅療養生活の維持を支援しています。
- 3) 秋田県立リハビリテーション・精神医療センターと連携し、地域医療連携パスの開発（脳卒中）とその早期運用を目指しています。

### XとYの分析が重要

浮き沈みの大きい芸能界で、次々に売れる戦略を披露している島田紳助氏  
彼は、この世界を生きぬくためにXとYの分析の重要性を指摘している。

Xとは「自分の戦力」であり、Yは「世の中の笑いの流れ」であるという。

彼は、自分の笑いを世の中に合わせている限り、自分のポジションを失うことはない。

XとYの分析は、これからの地域医療連携の運用にも当てはまる。自院の戦略を「世の中の流れにどう合わせてビジョンを達成するのか」ここからが、連携室担当者の正念場である。